

大学評価学会 第9回全国大会開催要綱（第1次案）

テーマ：『質保証』を問い直す ― 発達保障からのアプローチ ―

日 時：2012年3月10日（土）・11日（日）

場 所：早稲田大学（早稲田キャンパス）

参加費：会員 1,500 円、院生等会員 1,000 円、非会員 4,000 円

懇親会：4,000 円（院生等 2,000 円）

<大会コンセプトおよびシンポジウムテーマ>

大学評価学会は2004年3月28日に設立大会を開催し、「大学評価京都宣言＝もう一つの『大学評価』宣言」を採択し、学会における研究のありようを明らかにした。そこでは、「大学評価の基本に、学生の発達保障が明確に位置づけられる必要がある」ことを指摘している。

さて、今日の大学評価をめぐっては、「PDCAサイクル」と「内部質保証」がキー概念となっている。「質保証」をめぐっては、これまでの全国大会でも検討を加えるなどしてきたが、今日の状況にあって、あらためて「質保証」に対する検討を行いたい。その際に、本学会の立脚点である「発達保障」という視角からアプローチを試みたい。そのことを通じて、学生（や教職員）の発達保障に向けて、大学と大学評価のありようを根源的に問い直したい。

<プログラム>

第1日：2012年3月10日（土）

10：30～ 受付（於：22号館2階202教室前）

◆11：00～12：00 第1分科会（於：22号館2階202教室）

岩崎保道 氏（琉球大学）

「大学における教員業績評価の現状」

司会：蔵原清人 氏（工学院大学）

◇12：00～13：00 昼休み休憩（第IV期第8回理事会の開催）

※ 会員控室：22号館617教室、理事会：22号館618教室

◆13：00～13：50 年次総会（於：22号館202教室）

◆14：00～15：00 記念講演（於：22号館202教室）

広渡清吾 氏（専修大学、前日本学術会議会長）

「東日本大震災・原発事故と社会のための学術」

◆15：00～17：45 シンポジウム（於：22号館202教室）

[報告]（報告時間は各40分、コメントは各10分）

藤田英典 氏（共栄大学）

「大学教育・教養教育の現代的課題とその評価・質保証の在り方について」

渡部昭男 氏（神戸大学）

『発達保障』50周年と『Right to Development』 ― 大学評価学会の掲げる『学生の発達保障を可能にするような教育・研究のありよう』とは ―

コメンテーター：植田健男 氏（名古屋大学）、碓井敏正 氏（京都橘大学）

司会：井上千一 氏（大阪人間科学大学）

◇18：00～19：45 懇親会（於：大隈庭園ガーデンハウス3階）

<プログラム>

第2日：2012年3月11日（日）

◆10：00～12：30 分科会（午前の部）

●第2分科会「学校評価から学ぶ」（於：1号館401教室）

座長：日永龍彦氏（山梨大学）

〔趣旨〕大学評価と同様に、小中学校や高校にも「評価」が導入され、早くもその形骸化が指摘されるとともに、人事評価との連携が進められるなど、学校現場ではさまざまな問題が生じている。本学会は、大学評価を研究対象にしているが、階梯の異なった学校における評価の動向について学ぶことは、現実の「評価」が同じ教育行政のもとで進展しているということ、そして学生たちがそこで学んだ後に大学に入学してくるということの二重の意味において重要な意味をもつだろう。

また、制度化の時期が早かったため実践面では大学評価が先行したが、理論研究の面では学校評価に関するものの方が長年にわたる蓄積も多く、学ぶべきところは多い。そこで、本分科会では、高校までの階梯における学校評価を対象にした二つの研究報告をもとにして、議論を深めると同時に、大学評価研究にとっての何らかの知見を得たいと考えている。

〔報告〕

小池由美子氏（埼玉県立川口北高校）

「学校評価と4者協議会－高校までの階梯と大学評価－」

勝野正章氏（東京大学）

「学校評価と学校づくり－現状と課題」

◇12：30～13：30 昼休み休憩（第V期第1回理事会の開催）

※ 会員控室：1号館405教室、理事会：1号館404教室

◆13：30～16：00 分科会（午後の部）

●第3分科会「学生支援と発達保障」（於：1号館403教室）

座長：塩野博雄氏（立教大学）

〔趣旨〕今全国大会のコンセプトである「質保証から発達保障へ」に関連して、本分科会では、大学教育の現場で生じている「困難学生」への対応も含めた、事務職員の職場における課題について共有する機会を持ちたい。これまで議論されてきた事務職員に関わる課題の多くは、大学マネジメント論に代表されるように、その目線は大学の管理・運営に置かれており、日常の職員業務の現実からは乖離した議論が先行してきたような感がある。

そこで、本分科会ではあらためて、事務職員の職場における諸問題のうちで、学生支援の課題を取り上げ、発達保障の視角から議論していきたい。実際の職場に根差した、現実感のある議論を行うことを通じて、職場の課題を共有し、学生、さらには事務職員の発達を考えたい。

〔報告〕

苔米地示路氏（国土舘大学）

『もう大学生？まだ大学生？』学生支援につながる対応とは

－ 事例をとおして職員の対応を考える －

津田道明氏（日本福祉大学）

「東日本大震災と学生ボランティア」

－ 支援活動における学生の成長と職員の協働 －

●第4分科会「公立大学の評価の現状と課題」（於：1号館406教室）

座長：光本滋氏（北海道大学）

[趣旨]

公立大学は、地方独立行政法人法により法人化することが可能となり、現在までに7割を超える大学が公立大学法人となっている。国立大学と類似した目標管理のしくみが導入されているものの、評価体制・方法や評価結果の活用の仕方は地方自治体の裁量に委ねられている面が大きい。行政の介入によるのではなく、組織運営の自治を高めることにより、大学の機能を高めていくようなあり方を探ることが、共通の課題として浮かび上がっている。

昨年の本分科会では、公立大学の評価について、特徴と全国的な動向を明らかにするとともに、評価機関（評価委員会）と大学それぞれにおける評価活動の実際について報告をいただいた。ひきつづき今年も、公立大学の評価の実態と課題を事例に即して解明し、「もう一つの大学評価」の可能性を探っていききたい。

特に明らかにしたい点は、中期目標・計画策定過程において大学自治は確保されているか（関連して、法人の長の選考、組織運営、教員人事制度の制度と実態）、評価はどのように行われているか（評価委員会のメンバー、運営、大学・地方自治体の協議、認証評価の結果の利用、評価結果とその活用）である。

[報告]

光本滋氏（北海道大学）

「公立大学評価の動向と問題点」

谷口正弘氏（元大学基準協会、元札幌市立大学）

「自己点検・評価と認証評価との間

－ 大学基準協会での認証評価と公立大学での自己点検・評価の経験から －」

◆16:10～17:00 総括討論（於：1号館401教室）

司会：橋本勝氏（富山大学）